
捕獲された王子様

長谷麻紀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

捕獲された王子様

【Nコード】

N9188K

【作者名】

長谷麻紀

【あらすじ】

深海に棲む人魚姫・哀と地上を統べるエコダの王子様・快斗の不思議な物語です（CPは黒羽快斗（怪盗キッド）×灰原哀になります）

第一話：人魚姫の日常（前書き）

初めての快（K）哀の小説です。新蘭前提です。苦手な方はバックして下さい。

第一話：人魚姫の日常

ある日、深海に棲むいつも家に閉じこもってばかりの人魚姫が、薬品が無くなりそうなことを思い出して、二ヶ月ぶりに『陸』へ上がりました。

少女は科学の力で尾ひれを人間の両足に変え、無事に薬品を手に入れることが出来ました。

だけど、久しぶりに深海の外——しかも『陸』へと上がってきたので、確実に体力が減っていました。

仕方がないので、少女は比較的に陽が当たらない場所まで移動し、自身の体力が回復するのを待ちました。

勿論、日陰で休憩している理由は体力回復の他にもう一つありました。

それは、深海へ戻る時に人間に正体がバレないように明かりの少ない夜に戻ろうと計画していたからです。

でも、まさか明かりのない夜を待つて深海に戻ろうとした行動が仇になるなんて思いませんでした。

深海へ戻ろうとした時間、運悪く地上を騒がせている月下の奇術師と謳われる“怪盗キッド”に遭遇してしまったからです…

当然のことですが、その場にいた怪盗さんに遠慮なく妙な色をした

液体を蒔き、少女は白いマントを珍妙な色に染めてあげました。

しかし、まさかそのアクシデントで自分が人間の王子様を好きになることなど、少女自身そんな運命を知るよしありません。

最もそれは人間の王子様にも言えることでした。

何故ならば、彼自身も……人には言えない夜の姿と弱点がありますから。

ある意味、天敵ともいえる深海に棲む“人魚姫”に惚れてしまうなんて——本当に人生、何が起きるか分からないものです。

出逢うべくして出逢ってしまった人間の王子様と深き海に棲んでい
る人魚姫…。

二人が紡ぎ出す物語が示すものは、試練を乗り越えたハッピーエン
ドか……それとも、切なく最後には引き裂かれてしまう悲恋か…

この物語を知る『運命の神様』は、どちらに傾くのでしょうか……？

「…美しき深海の姫。貴方の隠された真実は何処にあるのですか？」

「あら、それを当てるのが貴方の職業でしょう？ハートフルな泥棒さん」

「おや。これは手厳しい」

「私の“真実”を待っているわ……早く奪いにきて」

「姫……」

それでは、物語を始めることにしましょう……

深海に棲む“魔女”と噂される最強の人魚・哀姫と、王家の呪いを解くために怪盗となった王子・快斗様の……不思議な物語を。

むかし、むかし……ある青い海の中に一つの大きな国がありました。

その国の名は“セレス国”といい、過去に人間たちに迫害された幻の生物・人魚が暮らしています。

——と一口に言っても、国で暮らしている者たちが全員【人魚】という訳ではありません。

国の中には人魚以外の者：俗に言う『妖怪』だの『珍獣』などが、たくさんいるのです。

あとは種族の壁を越えた【恋愛】で、特別な薬を飲んで深海の生物になった元・人間もいます。

さて：唐突に話を元に戻しますと、その深海の奥深い洞窟のような場所に、実験が大好きな一人の人魚姫がいました。

名は『灰原哀』と呼ばれる六、七歳の少女でしたが、以前の姿はもう少し大きい大人の女性だったらしいという噂がありました。

彼女は王宮に仕えている薬師で高名な人物でしたが、本業そっちの気で夜な夜な実験に明け暮れています。

しかも、その実験というのが『ヤバイ・苦しい・冷たい』の三拍子そろったものでした。

いつしか周りは畏怖の念を込めて、彼女を“人魚世界の最強魔女”または“海のマッドサイエンティスト”と呼ぶようになりました：

今やセレス国で知らぬ者はいないくらい有名な『人魚姫』は、常に深海に棲む生き物たちの一番の畏怖の対象でした。

だから、そんな人魚姫に関わりたくない他の生物たちが、彼女の住処に近づくことはありませんでした。

彼女も姉が数年前に陸へ上がって以来、特定以外の人とは会話をしません。

そんな事に時間を裂くぐらいならば、一人で色々な実験をしている方が良かったからです。

実際、彼女の邪魔をした者たちは強制的に哀れな末路を迎えました。

その者たちを発見した人の話では、彼らは専門医のカウンセリングを受けるまでの間、魂が燃え尽きたように不気味な笑い声を繰り返していた…そうです。

(…この薬品を使うと、また新たな物質に変化するということね)

今日も【有益な】科学実験の過程で、哀は新しい物質を発見したことをとても喜びました。

この深海世界が不思議な物質の宝庫とはいえ、滅多に正常な物質は生まれないからです。

少し調べてただけですが、幸いにも今回の“物質”のデータは正常

な数値を示していました。

そして、発見した物質を研究する為にピンセットで慎重に掴むと試験管の中に幾つか入れて素早く蓋をし、それを特注品のボックスに置いて保存します。

あとは、明日から様々な条件を付けてこれを試して、物質の効力と正体を見極めようと予定を立てます。

これで、一週間くらいは退屈せずに済みそうだと、怪しく顔を綻ばせて…

その光景こそ、まさしく“魔女”の称号に相応しいと評価されるでしょう。

（あとで、王宮へ出向いて彼にお礼を言いましょう）

哀は実験器具を片づけながら、貴重な薬品を提供してくれた青年に礼を言おうと思いました。

実験に使用した薬品は、流石の彼女も手に入らないかもしれないと諦めていたのです。

しかし、ひょんなことから友達（世間一般から見ればですが…）になった青年がポンと用意してくれたのでした。

大方、貴族の誰かを上手いこと言いくるめて用意させたに違いありません。

何せ彼は王宮でも上位ランクにいる“蒼の賢者”と呼ばれる深海の至宝で有名な青年です。

父親譲りの優秀な頭脳と母親に似た美しい容姿をしているので、他人を従わせることなんて簡単です。

彼は『表』では礼儀正しい青年を装い、普段から顔に何十枚も猫を被っているのですから…

その猫被り賢者様の名は【工藤新一】といい、乱暴（？）な『裏』の顔さえ知らなければ、大抵の周りに棲む生物たちは美しい顔にコロツと騙されてくれます。

しかし、それを抜きにしても彼の“賢者”としての实力は本物でした。

若いと何かしら文句を言われがちですが、彼はうまく立ち回って年長者たちを支えています。

そういう経緯から、この深海を繁栄させている立役者なので、周囲は至って平和そのものでした。

ですが、仮に変な噂話を流されたところで、この青年賢者様がおとなしくしているはずがありません。

逆に嬉々として相手に証拠を突きつけ、徹底的に追い詰めるでしょうから。

けれども、そんな“蒼の賢者”様でさえも、哀との皮肉の言い合い

には勝てませんでした。

それは少女の姿をした人魚姫の方が精神年齢が高く、青年以上に世の中の『理』に精通しているが故です。

まあ、そんなある意味お子ちゃまな性格をしている賢者様を少女は、とても気に入っていますが…

「一応、これは“お礼”だし…工藤君の好きなレモンパイを差し入れに持つて行くべきかしら？」

——きっと彼は嫌がった顔をするだろう。そして、その後は悔しそうな表情でぶっきらばうに「ありがとな」と言って笑うはず…

簡単に想像できてしまう自分を笑いつつ、哀は大切な友人・新一の為に調理室に籠もるのでした。

第一話：人魚姫の日常（後書き）

次は快斗を登場させるよう頑張ります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9188k/>

捕獲された王子様

2010年10月13日17時53分発行